

ワクチン粒子が様々な臓器の中でも特に卵巣に多く蓄積する事が判明している。卵巣でmRNAから異物のスパイクが産生されると、それが免疫の攻撃対象となり『卵巣炎』が生じる。この自己免疫的炎症反応により、将来卵子になるべき卵母細胞が激減し、将来的に排卵する卵子の出来ない個体になる可能性が示唆される。男子でもワクチン粒子が精巣上体に蓄積する事が判明しており、同様の事故免疫反応により精子形成に異常が起こる可能性が示唆される。この為、将来子供を持つべき男女ともに将来的に生殖系に異常をきたす可能性が高く、遺伝子ワクチンの接種は極めて危険である。